

自己紹介

淵元初姫（ふちもと はつき）

法政大学ボアソナード記念現代法研究所 客員研究員

【主な経歴】

エディンバラ大学大学院社会政治学研究科社会政策学専攻修士課程修了（MSc in Policy Studies）

法政大学大学院政治学研究科政治学専攻博士後期課程修了（博士（政治学））

新宿自治創造研究所非常勤研究員、法政大学大学院公共政策研究科特任教授などを経て現職

【主な活動】

NPO法人サードプレイス理事

横浜市市民局「市民活動運営支援事業部会」専門委員

横浜市都市整備局「人・まち・デザイン賞 地域まちづくり部門表彰部会」委員

町田市都市づくり部「街づくり景観審議会」委員

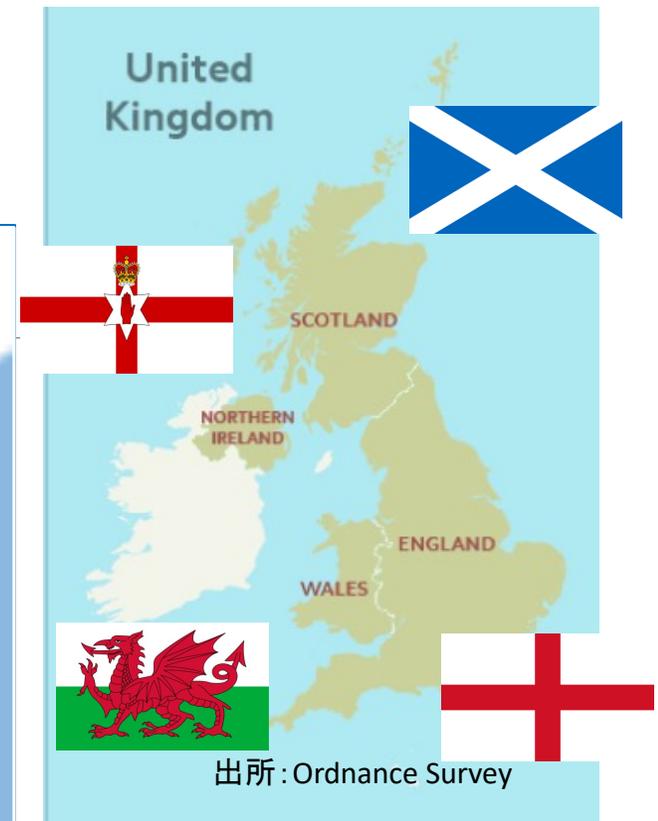


研究・活動のキーワード

スコットランド／コミュニティ政策
サードプレイス／居場所づくり
社会的連帯

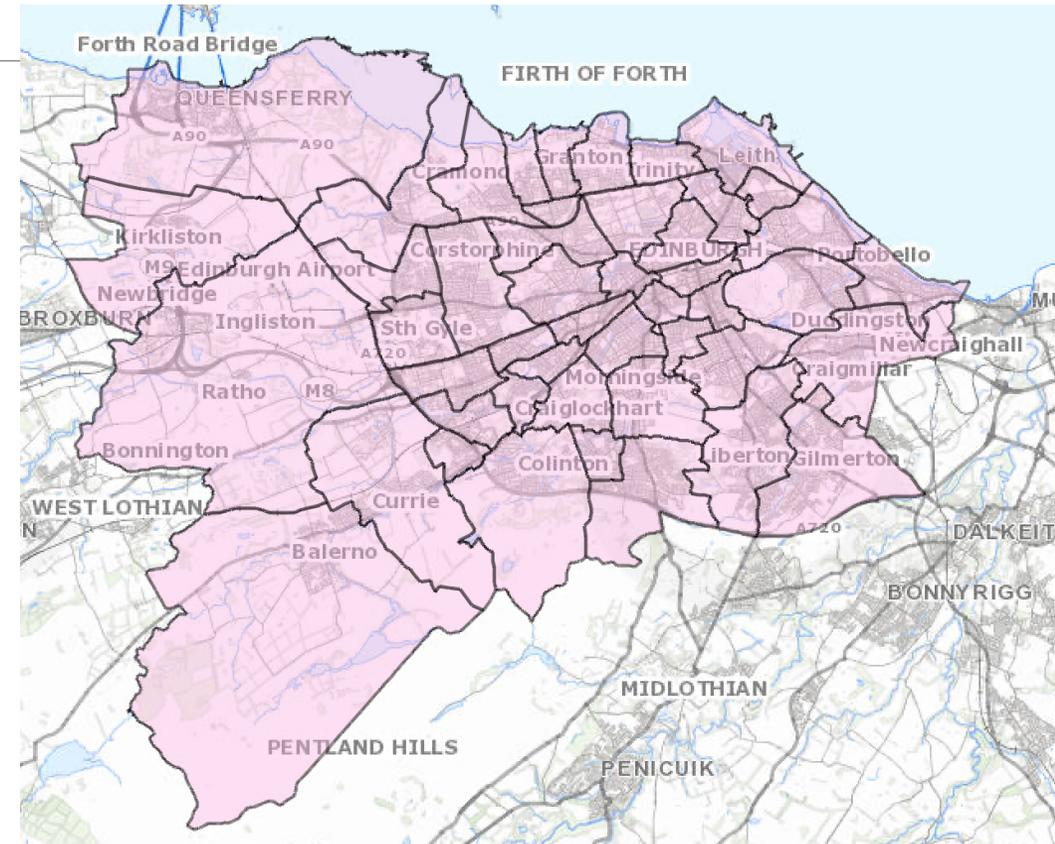
スコットランド

- 英国の北方に位置するスコットランドは人口およそ550万人。「首都」はエディンバラ市
- 1707年まで独立した王国であった
- 1997年の住民投票により立法府が創設される
- 2014年の独立をめぐる住民投票は否決(賛成44.7%: 反対55.3%)
- 1973年より、スコットランド全域で地域コミュニティの自治システム「コミュニティ・カウンスル」が始動し、現在に至る



スコットランドの地域コミュニティ 「コミュニティ・カOUNシル(地域評議会)」

- 大規模化した自治体の区域を、あらためていくつかの地区に区分して自治を行う仕組み(自治体内分権※1)
- たとえば、首都エディンバラ市の場合、市内を46の地区にわけて運営している
- コミュニティにおける課題について議論し、意思決定を行う。しかし、その決定には拘束力はない



※1:「自治体内分権」については名和田是彦『コミュニティの自治:自治体内分権と協働の国際比較』(2009) 日本評論社を参照。

コミュニティ・カウンスルの実際と機能の分析

-自治体へ提出された免許申請や、都市計画などに関する申請に対して意見を述べるという審議会的役割をもつが、実際にはその意見は尊重されないことも多い

-地域コミュニティを豊かにするためのさまざまな活動が可能であるとされるが、財源の乏しさから、実際の活動はささやかなものにとどまる

-にもかかわらず、コミュニティ・カウンスルに集まる人たちは、熱心に議論し、地域のことを考えている

実際の機能

地域問題の発見・討議

ネットワーキング

地域統合

行政活動の監視・圧力

政治的指導者の育成

民主主義教育

地域の居場所

居場所とはなんだろう？

「サード・プレイス」
人間の生活する空間の複数性に関する概念

First Place: 主に家族

Second Place: 主に学校や職場

Third Place: インフォーマルな公共の居場所

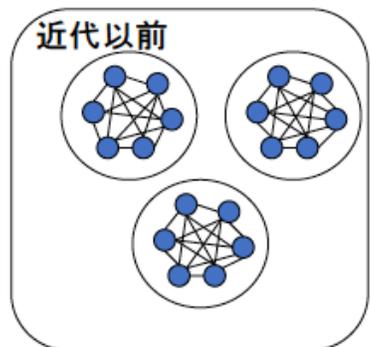
“When the citizens of a community find places to spend pleasurable hours with one another for no specific or obvious purpose, there IS purpose to such association”

「コミュニティに暮らす善良な市民が、特別な、あるいは明確な目的もなしにみんなで楽しい時を過ごせるような場所を見出す時、そのような交流には、じつは目的がある。」 Oldenburg (1989:ix=2013:5-6)

Oldenburg, Ray (1989) *The Great Good Place: Cafes, Coffee Shops, community Centers, Beauty Parlors, General Stores, Bars, Hangouts and How They Get You through the Day*, NY: Marlowe & Company, 忠平美幸訳『サードプレイス: コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」』(2013)みすず書房

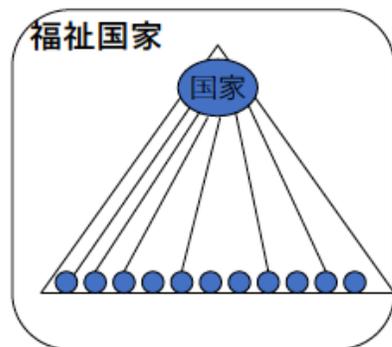
- 私たちは、生きる上でのリスクを補い自らの生存を維持するために他者とつながる
- このつながりのあり方と居場所は相互に関連しながら、時代とともに変容してきた

居場所とつながりの変容



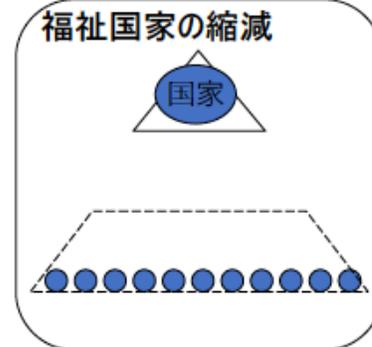
近代以前

家族・共同体やギルドなどにおける相互扶助



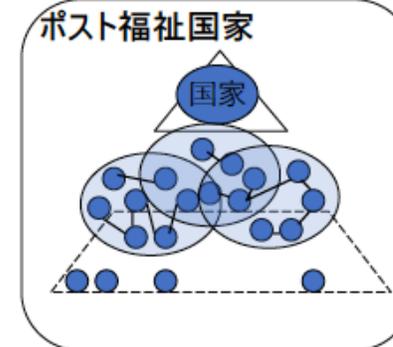
福祉国家

原子化した個人が国家と直接結びつく



福祉国家の縮減

原子化した個人の孤立



ポスト福祉国家

中間集団への参加とそれを通じた社会・経済・政治への包摂

家族・親族や地域共同体、職能集団や教会などにおける自助・扶助・共助によって、人と人との直接強くつながる人稱的連帯

- ・顔の見える関係
- ・「私」と「あなた」の助け合い

このつながりの場がすなわち居場所 → ファースト・プレイス

都市における個人の原子化
個人は国家と直接つながる非人稱的連帯

- ・国家を通じた、見知らぬ誰かとの助け合い
- ・大人にとっては職場が、子どもにとっては学校が居場所(属性ごとに分立) → セカンド・プレイス

国家の後退により、個人と国家のつながりも薄れる
社会的連帯の喪失

- ・家族の「弱体化」
- ・職場への帰属の不安定化

→ 居場所の喪失

中間集団の創設(再生)とそれらを通じた個人の社会的包摂
→ これまでの人稱的連帯と非人稱的連帯を引き継ぐ新しい社会的連帯の可能性

→ サード・プレイスにおける三人稱的連帯

新しい社会的連帯の可能性: 三人称的連帯

非人称的連帯

- 全く見知らぬ誰かとの三人称的關係

たとえば

-BさんとCさんが、それぞれ共通の知り合いであるAさんとの關係を媒介にゆるやかにつながっている

三人称的連帯

- 地域社会のどこかですれ違ったことのある誰かとの三人称的關係

-親しく話すほどではないが知っている

-顔と名前が一致はしないものの、互いの存在程度は「彼」や「彼女」程度に認識している

人称的連帯

- 顔の見える二人称的關係

-子ども同士の友人關係を通じて親同士が間接的に接点をもっている

居場所：空間と時間の中で

場所への愛着



帰ってこれる場所※2

異なる属性をもつ者同士の
多文化・多世代交流

支援を受ける人がやがて
支援をする側に回るといふ循環構造

※1：NPO法人サードプレイス代表理事の須田洋平による居場所の定義である。